



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	平成29年度 トータル支援活動について
Author(s)	浦崎, 武
Citation	琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター紀要 = BULLETIN OF PRACTICE CENTER FOR EDUCATION OF CHILD DEVELOPMENTAL SUPPORT(9): 57-59
Issue Date	2018-02
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41171
Rights	

平成 29 年度 トータル支援活動について

浦崎 武*

New perspectives of sickly education in Okinawa Prefecture

Takeshi URASAKI

琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターでは 2006 年 10 月より実践トータル支援活動がスタートし本年度で 11 年の年月が流れ、10 月には 12 年目に入りました。2017 年 3 月に海に関する企画を中心とした最初の「トータル支援」に関する著書が出版され、次年度にはトータル支援活動の 10 年間を越える取り組みをまとめた著書が出版されます。そのようななか、本年度で本センターが廃止になり、あらたな教職センターとして次年度から再スタートします。また、本紀要は本 9 号をもって廃刊となり、同じく教職センター紀要として新しく発刊されることとなります。

今までの本センター取り組みの評価と今後のさらなる発展に向けて今までの取り組みを整理、評価し、新しい方向性を検討しているところであります。

「トータル支援教室」を中心的な事業として、今まで 11 年半で 179 回の企画案を実践してきました。「トータル支援教室」は地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、「トータル支援教室」と呼んでいます。また、子どもたちとの関わりを通して子どもの特性を多角的に捉え、支援教育の多様性を追求し総合的包括的に支援していく上でも「トータル支援教室」と呼んでいます。この教室は個別支援、集団支援、学校および教育機関との連携支援、子育て支援という 4 つの柱から成り立っています。活動への参加者は子どもたちを支援することにより子どもたちから発達支援、教育実践を学びます。その活動の終了後、子どもたちとの関わりによる

エピソードを具体的にとりあげ、反省会を行い、そして、その後、参加メンバーみんなで行う交流ミーティングを通して子どもたちの理解および支援のあり方を深めてきました。

本センターでは平成 21 年度に「特別研究員制度」を開始しその制度を活用した特別研究員の活躍によりセンター活動をより充実させてきました。特に平成 23 年度よりセンターの特別研究員（武田喜乃恵）が常駐することができたこともあり、充実した地域貢献活動、教育および研究活動を行うことができるようになりました。本年度まで崎濱朋子（読谷村立古堅小学校校長）、瀬底正栄（沖縄県教育庁）、武田喜乃恵（発達支援教育実践センター相談員、宜野湾市立大謝名幼稚園教諭）、大城麻紀子（沖縄県立鏡が丘支援学校教頭）、久志峰之（那覇少年鑑別所）、金城明美（国頭村立北国小学校校長）、本間七瀬（竹富町立上原小学校教諭）、運道恵理子（石垣市立新川小学校教諭）、入嵩西清幸（竹富町立大原中学校教頭）、富盛さゆり（社会福祉法人中日会施設長）10 人の特別研究員が子どもたちへの支援をするとともに子どもたちから実践を学んできました。

定期的なトータル支援活動として「トータル支援教室（集団適応教室）」を月二回、教員、学生および発達支援教育に関する専門家を交えて「実践事例研究会」を月 1 回、また教員や保護者を対象にした「相談支援」、子どもたちに継続的なサポートが必要であれば定期的に支援を行う「個別支援」等を行ってきました。大学を拠点とする定期的なトータル支援活動は様々な事業の基盤をなす取り組みとなっており具体的な地域協働活動のネットワークの要となっています。

本センターの支援活動による支援・教育論について学童期に焦点を当てたトータル支援の論文が中心でしたが、昨年度から幼稚園教育、特に幼児

* Faculty of Education, Uni. of the Ryukyus

期に力点を置くことを重要視しています。しかし本年度は最後の本センター紀要になることから、本年度紀要はそれぞれがそれぞれの現場の実践を意識して書いてもらいました。

トータル支援教室における実践について「障害児の「向かう力」に基づく教育実践と発達臨床支援 - 障害児の理解とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵)」、特別支援学級におけるトータル支援の実践について「自閉症・情緒障害特別支援学級および通常の学級における快の共有体験に基づいた自立活動の教育実践研究 - 自閉症スペクトラム児の他者との関係性の変容過程に焦点を当てて -」(城間すみ恵: 宜野湾市立大謝名小学校教諭)、特別支援学校の実践によるトータル支援との関連性について「長期入院している子ども達と「ともに学び」「ともに楽しむ」ICT交流の実践 - 児童の「向かう力」を引き出すICT機器を活用した前籍校との交流及び共同学習 -」(大城麻紀子)、通常学校における実践について「支援を要する子の居場所形成と学級経営」(瀬底正栄)、トータル支援教室における地域支援について「地域の特色に基づいた障害児の地域支援と実践力養成体制整備 - 特別支援教育とトータル支援における実践 -」(浦崎武・武田喜乃恵・崎浜朋子)と題して論文にまとめました。

八重山の地域での支援活動は専任浦崎が赴任した年度の相談支援を入れると13年目、トータル支援教室が八重山でスタートして9年目、地域スタッフが中心となった地域拠点型の「トータル支援教室 in 八重山」は7年目を迎えました。4年目が過ぎた宮古福祉事務所のバックアップによる取り組みも軌道に乗り、実用的な取り組みの可能性を探るようになりました。また、国頭教育事務所は本年度1回、島尻教育事務所は本年度2回の取り組みを昨年度に続き実施することができました。本年度からトータル支援教室の取り組みおよび県教育委員会との共催事業と根付き、より一層、連携・協働が発展しています。那覇教育事務所においては那覇サテライトキャンパス、久米島支援に関しては久米島サテライトキャンパスへ発達支援教育実践セミナーおよび実践発表会の配信を行いました。各地域の事務所の管轄での公開講座やサテライト配信をする等、地域間の取り組みを共有することも重要です。

本年度も琉球大学を会場とした一日キャンプは中頭教育事務所との共催により域連携活動へと発展して4年目を迎えました。それまでは中北部地域の取り組みとして実施してきた金武町のネイ

チャー未来館での4年間の取り組みと重ねると8年の年月が過ぎたこととなります。積極的に離島・へき地に出向き地域の土壤に触れながら子どもたちや発達支援教育に携わる先生や支援者と関わり、ともに学び合うことができる機会を今後も継続していきたいです。

大学中期計画実現に向けた戦略的教育支援等推進経費(教育等プロジェクト推進経費)により「障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域の学校や教育行政機関との協働支援を行う地域拠点の構築と地域間の連携・協働」と題する事業を行いました。特に中期計画実現へ向けて、トータル支援活動が地域支援へと展開を目指して、昨年度までの「トータル支援教室 IN 八重山」、「トータル支援教室 IN 宮古」、「トータル支援教室 IN 中頭」に加え、「トータル支援教室 IN 島尻」「トータル支援教室 IN 那覇」「トータル支援教室 IN 国頭」における取組が始まり、県内6圏域の教育事務所との共催を得るまでに「トータル支援教室」が拡がりました。本年度も平成26年度から続く「ちゅら島の未来を創る知のかけ橋」事業により地域志向教育推進経費の助成を受けました。

各圏域で取り組んできたトータル支援教室の事業の成果は本年度1月に開催した発達支援教育実践セミナーおよび実践報告会で成果発表を行ってきました。そしてその成果が本年度の紀要にも反映されています。その一連のトータル支援教室および実践報告会や講演会、公開講座等地域に発信、還元する機会の取り組みは教職センターの事業として今後も継続、発展させていきたいです。本センターの地域貢献への取り組みは県内、県外に認知され期待の高まりとともに教職センターの事業としてより一層の発展が求められています。

今まで発達支援教育実践センターの運営および事業に協力支援を行ってきた関係者に深く感謝するとともに、今後の教職センターの運営および事業においてもより一層のご理解とご鞭撻を頂ければ幸いです。

以下、本紀要において当センターの本年度事業の実践研究の成果をまとめました。

トータル支援教室

中期計画事業: 地域協働プロジェクト - 集団支援と学校における教育実践の協働実践研究障害児の「向かう力」に基づく教育実践と発達臨床支援 - 障害児の理解とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵)

自閉症・情緒障害特別支援学級および通常の学級における快の共有体験に基づいた自立活動の教育実践研究 - 自閉症スペクトラム児の他者との関係性の変容過程に焦点を当てて - (城間すみ恵)

長期入院している子ども達と「ともに学び」「ともに楽しむ」ICT 交流の実践 - 児童の「向かう力」を引き出す ICT 機器を活用した前籍校との交流及び共同学習 - (大城麻紀子)

支援を要する子の居場所形成と学級経営 (瀬底正栄)

地域の特色に基づいた障害児の地域支援と実践力養成体制整備 - 特別支援教育とトータル支援における実践 - (浦崎武・武田喜乃恵・崎浜朋子)